

小論文 B (資料総合分析型)

下の2つの図は、日本の食料消費(食料支出、食の外部化など)の将来推計を表したグラフである。これらの図を見て、下記の設問にそれぞれ答えなさい。

問 1 下の2つの図から読み取れる事実を300字程度で書きなさい。

問 2 右の図で示された内容を参考に、左の図のような変化が起こる社会的な背景について、あなたの考えを500字程度で述べなさい。

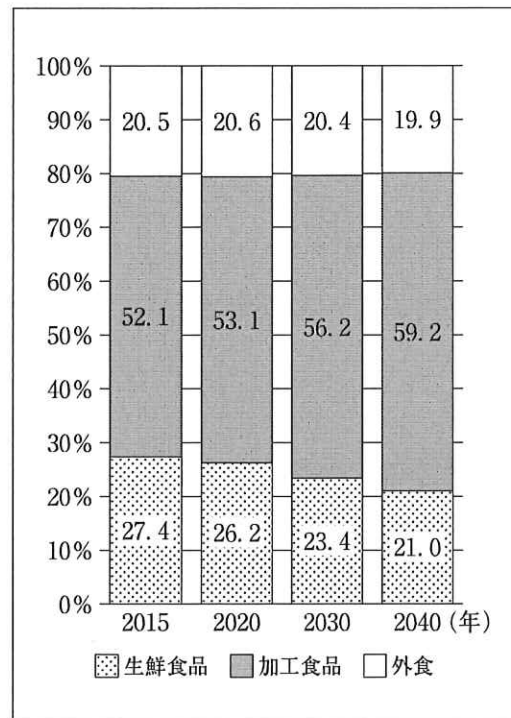
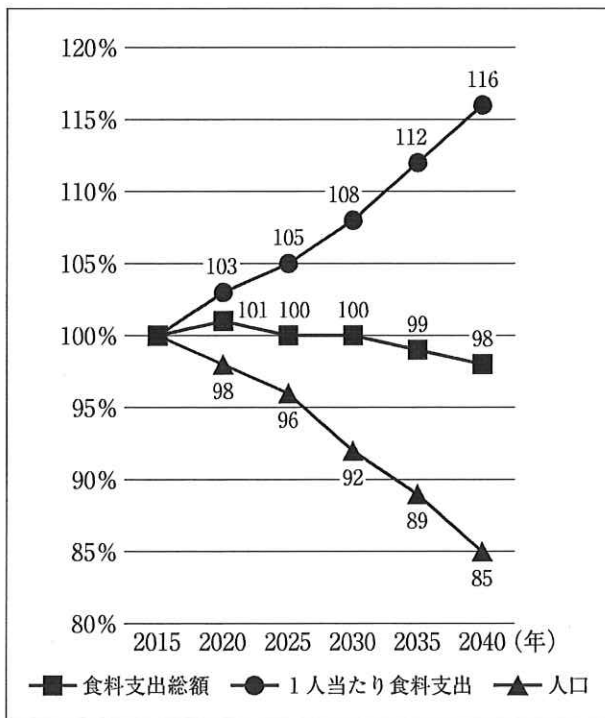


図1：1人当たり食料支出及び食料支出総額 図2：生鮮、加工食品、外食別の食料支出構成割合

※ 2015 年は実績値、2020 年以降は推計値。

※図1は2015年の実測値を100とした時の推計値の割合。

※生鮮食品は米、生鮮魚介、生鮮肉、牛乳、卵、生鮮野菜、生鮮果物の合計。

加工食品は、生鮮食品と外食以外の品目。

出典：農林水産政策研究所「我が国の食料消費の将来推計(2019年版)について」に基づいて作成

小論文 B (資料総合分析型)

【出題意図】

問1 図を見て、そこから読み取れる事実を的確に把握する能力を見る。

問2 図の示す意味を適確に理解したうえで、自分の考えを明快に表現する能力を見る。

【解答例】

問1

まず左図から、2015 年を基準に人口は 5 年おきにどんどんと減少していき、2040 年には 85%に達し、15%減少する。食料支出総額は年が経過してもそれほど変化せずに、100%前後の値が示されていた。1 人当たりの食料支出は年々増加していき、2040 年には 116%となり、2015 年と比較すると 16%増加することが示されていた。右の図の食料支出構成割合からは、まず、外食が一定の水準で推移することが示されていた。生鮮食品については、年を経るごとに減少していき、2040 年には 21.0%となり、6.4%減少する。加工食品については、年々増加していき、2015 年では 52.1%であったが、2040 年には 59.2%となり、7.1%増えることが示されていた。(321 字)

問2

左の図から人口が減少する傾向が推測されているが、食料支出総額が一定の水準が維持されている状況を踏まえると、図が示しているように 1 人当たりの食料支出が増加する。1 人当たりの食料支出について、食事を摂る際に家の外で摂る割合が一定数いるが、2015 年からの変化が一定であることを踏まえると、1 人当たりの食料支出の増減に直接影響していることは考えにくい。一方で、家で食事をする際に自炊するのではなく、加工品を購入して食事を摂るという状況が増えていく予測となっている。そのため、スーパーなどの小売店で生鮮食品を購入してまとめて食事を作ることをすれば支出は抑えられるが、加工品を調理して食事をとることをすることで 1 人当たりの食料支出が増えていってしまうのではないだろうか。昨今、冷凍食品などの質も上がりおいしく食べることができるようになっている。さらに食べ物の宅配サービスが増え、気軽に注文できるようになっているため、1 人当たりの食料支出が増加する一端となっていることが考えられる。食事を加工品で済ますということは、一度きりの容器やカトラリーを使うことになるため、ごみを増やすことにもつながる可能性がある。生鮮食品を自分で購入し栄養面を気にしながら食事をとることを心がけたいと思う。(535 字)